

# 俺のヴィジランテ合衆 国

連邦士官

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

アームストロング上院議員の僕のヒーローアカデミアです。

# 目次

アメリカン・ストロング	1
アメリカ・オブ・リバティ	10
アメリカン・ドリーム	21



# アメリカン・ストロング

俺は今、荒野を歩いている。マイサンとも言える雷電に敗れ今何故かデス・バレーにいる。場所は見たらわかる。俺はそこそこ大学を行つていたからな。

アメリカらしいアメリカの自然は全て覚えている。同時にそれらはアメリカンがもつ、フロンティアスピリットがあるマニユフェストテイニーでこれらは膺懲すべき土地だ。

俺は雷電に負けたがこうやって生きている。ならばだ。雷電がいった、雷電が見せた弱者からの強者は極めてアメリカンだ。アメリカン・ドリームそのものだ。アメリカとはその意志そのものだ。

アメリカはネイティブアメリカンいやインディアンを押しつけて作られて、次にコモン・センスで有名なあれにより皆が奮い立ち出来た国家だ。なら、古き良きアメリカとはフロンティアスピリットを持ち、マニユフェストテイニーにより世界をアメリカにして、世界から飢餓から何もかも消し飛ばせるほどのパワーを持ち、アメリカと聞いただけで人々が頭を垂れ羨ましがるようであればならない。

俺は正しいアメリカを示したはずだ。アメリカはわかりやすい理念とシエリフとしての役割を渡すために俺が提示したのはわかりやすい世界、サンズ・オブ・リバティだったはずだ。

「だったら簡単じゃねえか。雷電。お前の意見も入れてやるよ。」

アメリカとは自由意志、それは太古ギリシャのプラトンが語ったアイデアにまで遡れる。ならば、雷電の意図までも飲み込み、すべてを合わせた社会、混沌の中の秩序とアメリカン・ドリームを叶えられる教育社会基盤を全員に施せる社会、これにより雷電のよいうな人材が増えれば社会は自ずと努力をするはずだ。

努力は報われないといけない。俺はだからこそ、相撲・レスリング・ボクシング・バリトウッド・サバット・いけ好かないコマンドサンボ国家などを問わずにほぼすべての格闘技を俺は習った。

「今更、またやり直すのも悪かあねえな。破壊と再生こそがアメリカだ。」

それより先にこのクソ暑い砂の山を抜けねばならない。いけ好かないカルフォルニアなんてエリート主義の拜金主義州だ。許せるわけがねえ。ああ、身体をほぐすか。

「待つてろよ！お前にアメリカを見せてやるぜ！」

デス・バレーの砂漠は俺の前では単なる猫のトイレ程度のものだ。一気に走り抜ける。砂漠では俺のスーツが役に立つ。日差しに置いてもスーツは役立つ。何より、夜は

冷え込むことを考えればスーツは砂漠の戦闘服と言えるだろう。

「くそ。」

俺のスポーツマン精神で一気に砂漠を走り抜けたのは簡単なことだったが問題がある。俺の社会番号は使えねえ。社会番号の調達から始めるか。一から始めるのもいいかも知れねえ。持たざる者の実地調査だ。悪くはないな。

上り詰めるのも鍛錬だ。それを忘れて自己の努力の足り無さを社会のせいにして、ルサンチマンを抱き、常に文句をいうだけでは人間ではなく衆愚だ。そんなのはアメリカじゃねえ。それはイギリスやフランスなどの茄子が腐ったようなエリート主義者の発言だ。生まれは選べないが鍛錬は選べる。

強大な意志と精神力がある思想これがアメリカだ！決してそんな酒を飲んで負けを嘆いて何もしない敗北主義者の皮肉屋がアメリカなわけがねえ！

「まずはクリップがあつたか？」

マネークリップや財布はどうなってるのか確認はしてなかった。そもそもこのスーツは破れたはずだが何故、着てるんだ？誰の仕業だ？もしや、愛国者達か？

「まあ、どうだっていいことだ。気に食わなかったらぶん殴る。」

スーツを探るとマネークリップには600ドル、財布にはカードが入っていたがカードを使うと俺の居場所がバレるかも知れねえ。道路を走ると前からタクシーがやって

くる。今の場所にやってくるのは観光客を乗せてるか、そのふりをして死体を片付けに来たマフィアぐらいだろう。

後者なら楽に殴って金と情報を聞ける。怠惰なだけの市民は殴るわけにはいかないからな。

すれ違いざまに目を見る。やつは人を殺したことがあると瞬時に理解をする。それは上院議員ならわかる。

車が後ろで止まった。瞬時に俺は振り返りざまに走って、降りてきてシヨットガンを構える奴を無視して殴り飛ばした。

「てめえ！何者だ！喋りやがれ！」

一発、二発殴ると体が固まった。何だこいつは？催眠術やそのような怪しいことをやったのか！

「痛いぞこの筋肉だるまが！お前なんで殴りやがって俺の正体を見破ったのか？そうだよ俺が連続爆弾魔・ティンダー様だ！」

テロリストかじやあ、生かしておく意味はねえな。テロリストと戦士は違う。こいつは戦士ではない。テロリストは社会を変革させる気がなく単なるルサンチマンで社会を破壊しようとする異常者だ。

「うおおおおおおお！」

立ち上がろうとするが深海にいるようにまとわり付きやがる。何だこいつは？資料にあつたサイコ・マンティスの仲間か？

「無理だぜ。俺の個性は爆弾じゃない。奴らコメンテーターは馬鹿だからわかりやしないんだよ。冥土の土産に教えてやる。俺の個性は俺自身を含めた密度変化だ。お前の筋繊維の密度を変化させて立てなくしてるんだ。俺自身の筋繊維を強化すればお前のパンチなんか効きやしない。わかったか？マツチヨマン。筋肉なんか個性社会では見せかけなんだよ！」

個性？なんのことだ？まで、よく見ればこいつが喋るアメリカンには訛がねえもしかしてだが。タクシーのナンバーの桁数も違いやがる。そうか、ここは別次元なのかもしれないねえ。

ディーテ世界。眉唾と置いていたが存在したのだろう。ならば別の展開を迎えて発展したアメリカに俺がやってきたのかもれないな。だからってやることは常に同じだ。アメリカはアメリカだ！星条旗は星条旗だ！

「個性だかなんだか知らねえがな……アメリカを舐めるんじゃないやねえ！」

立ち上がろうとする意志があれば誰でも立ち上がれるのがアメリカだ。お前は俺のアメリカをバカにした。

「なんで!?馬鹿な！ふざけんよ！」

とつさにやつはシヨットガンを撃とうとするがもう遅え、一気にタツクルを決めるとそのまま、十発殴った。手を見ると血が出ている。ナノマシンまでは着いてきてないのか。まあ、ナノマシンも小手先に過ぎない。必要なのはアメリカンスピリットだ。それ以外は付属品に過ぎない。

完全に伸びたのを見て、縛り上げるとやつはタクシーの中身を見る。トランクには工具、ダッシュボードには札束、クスリの売人も兼ねていたようだ。なら、手始めにヤクをばらまくゴロツキをぶん殴るか。

「楽しいめそうだな。ドライブの開始だぜ。」

タクシーを飛ばすとそのまま、市街に入るが驚愕した。

「人間じゃねえシャークヘッドのやつまでいるのか。」

ティンダーの携帯からSNSを見て、この社会の成り立ちも調べたがはつきり言つて亜種のルツキズムにあふれていやがる。

個性という努力を墮落させ、言い訳にもなるふざけた力。これが癌に間違いねえ。それに個性がなくてもヴィランなんてのはぶん殴れば倒せる。個性は個性でしかない。しかし、個性にアメリカンスピリットは犯され捻じ曲げられてしまった。

努力すれば誰だって俺ぐらいにはなれるはずなのに。コイツらにアメリカを叩き込んでやる。

「あれから8年か。オールマイトオタク、お前とこうして話すようになるとはな。」  
俺は眼鏡とネクタイを外した。オールマイトに憧れてるだけのムキムキマツチヨの変態野郎に向き直る。

「……本当に止まらないのか？」

止まれる訳がねえそれがアメリカだ。オールマイトのやり方もアメリカだろうが俺のやり方もアメリカだ。

「わかってるだろう？ 考えががち合う時にやるべきことが。それに今のヒーローはヒーローじゃねえ。あれはハリウッドの俳優やモデルと一緒に。金で雇われてるだけの奴らだ。現にアメリカはヒーローは山のようにいるがお前と今向かってるらしいスターアンドストライプぐらいだ。既にアメリカはしんだんだよ。だが、アメリカは蘇る！」

俺は拳を天に上げた。

「なんでお前はそんなに力を持っている？ 個性か？」

なにを馬鹿なことを言ってるやがる。個性で得た力なんてものじゃあアメリカは動か

ねえ。努力と鍛錬と研鑽、そして筋肉だ。わかりやすくシンプルだ。個性は努力ではなく、墮落させる。

「これが俺の個性かだど？個性や無個性にこだわるようじゃ、ヴィランでもヒーローでもねえ。俺は常に俺自身がアメリカだつて思っている。儂いものが好きなお前らと違つてな。オールマイト。今の拝金主義、権威主義、エリート主義、自由を勝ち取ろうとも、自由であろうとも開拓の闘いも忘れて、個性という異能のゆりかごで安寧を得ようとする。努力を忘れた個性過激社会で優生学に基づいた個性婚が跋扈する世の中にどこにヒーローがいやがる？俺に対する支持は偉大なるアメリカと共に個性が生み出した社会の歪みに対する怒りなんだよ。だが……。」

俺は再びやつの前に歩く。コロラド州知事としての答えは言ったがまだ俺個人の答えは言つてねえ。

「そんな馬鹿な話が！じゃなければどうやってそんなことを。」  
個性に頼りすぎた結果なんだろうとお前らの。

「そんなことを知つたこつちやねえ！オレが気に入らねえものをぶん殴る！それが支持者だろうと俺自身だろうと気に入らねえから殴る！それが！俺の！アメリカだ！星条旗舐めんじゃねえ！」

殴る前にある声が俺にかかった。

「心配するな！私が来た！ヴィジランテアメリカ連合国、初代大統領アームストロングと名乗ってるらしいが大統領として……。」

こいつがオールマイトか。アメリカをこいつに叩き込んでやる。アメリカにはアメリカの意志がある。そのヒーロー精神とアメリカンスピリット。どっちが強いかな。しかないよな。

「だからどうした！」

俺は走り出した。オールマイトに向かって、いや、アメリカのアメリカンとして、これが本当のアメリカなのだから！

## アメリカ・オブ・リバティ

タクシーを寄付してもらったが、やることが多い。手始めに組織を作ろうと思ったが、組織は作るより乗っ取ったほうが早い。個性を強化するなどという努力も何もない墮落の象徴のドラッグを売るあの売人の組織の幹部を即座にぶん殴った。

そして、その販路と資金力を使いPMCのアメリカン・セキュリティ・ピンカートンと運送&世論IT会社サンズ・オブ・リバティを立ち上げた。そして、未だに続くアフリカや中東の紛争に介入、ドラッグの輸送網を使った困窮者に対する食品の提供、アメリカ国籍者に対する救済活動。

富の偏りに対する訴え、個性重視によるアメリカン・ドリームの喪失、アメリカ内のアメリカ人に対する排他的政策に対する批判を背にマフィアや汚職警官をぶん殴り、社会を変革するのは簡単だった。奴らには芯がないナヨナヨした知的階級だから強いものには媚びる。ハクトウワシが愛想をつかして絶滅しかけるわけだ。奴らはリヨコウバトだ。

半年の準備期間でコロラド州知事選挙に出馬をした。

「わかるだろう！この社会には変革が必要だ！しかし、変革には痛みを伴う！だがな！墮落して努力もないアメリカはアメリカじゃねえ！今やアメリカの誇りはなくなつた！何故、アメリカが墮落した！崩壊した？1%の富裕層が知的個性と個性婚を重ねて経済を牛耳つてやがる！アメリカンなのに自分の祖父父母が！先祖が！自由のために小賢しいヨーロッパの片田舎の島国と何をしたのか忘れたのか！個性婚が血統を意味するダービーレースのサラブレッドのようなブリティッシュを意味するならば、お前らには自由を勝ち取つてきた闘士の血が流れている！本当の自由の一票がコロラドを変えろ！チェンジ・アメリカ・グレート・アゲイン！アメリカに何をしてもらえるかじゃねえ！お前がアメリカになにができるかだ！バイ、アメリカン！Made in U.S. A！俺らこそがアメリカ製品だ！アメリカ自身だ！核だろうがミサイルだろうがどんな個性だろうが怖くねえ！思えばかのジエロニモもロボ・カランポの王も全てアメリカだ！意志があれば個性なんか関係ねえ！俺は無個性だがなこうやつて出来る！」

近くにあつた大木を俺が掴むと一気に引き抜いた。そして、秘書官のピンカートンから斧を投げられるがそれを掴み、へし折るともう一方の木を手刀を何回も使い、切り倒す。

「鍛えればこれぐらいできる！アメリカン・ドリーム舐めるな！アメリカにはアメリカンがいる！アメリカンにはアメリカがある！自由の意志は我々の手にある！我々こ

そが、この国こそがどこよりも！アメリカだ！リパティ！グレート・リパティ・アゲイン！アメリカを再び自由で偉大で超大国で世界の中心で！パクス・アメリカーナ？モンロー主義？クソ喰らえ！アメリカこそが世界だ！世界は再びアメリカになる！アメリカン・リパブリカ党？アメリカン・デモクラシ党？奴らは個性が出た時に国民を置いて核シエルターで震えていただけじゃねえか！国民を救えない議員に居場所なんかいらねえ！俺に任せろ！俺がお前らの声をこの国の上院と下院に叩き込んでやる！選挙制度舐めんじゃねえ！」

俺の声と共に会場はUSA！USA！USA！とグレート・アメリカン・ドリーム・アゲインやら、言う声が大きいがまだ世論調査では二大政党有利だ。俺は墮落したアメリカを作り上げたあの政党たちに入る訳にはいかない。俺は本来のアメリカを取り戻す。

3ヶ月もするとたった210人程度の集会在が2万人規模に変わっていた。俺は刑務所や軍の療養施設に私的に行っていたのがパラッチに撮られたのが大きかったのかもしれない。俺が私的に力により傷付き、力で変革を起こそうとした、また起こしたそれを止めた戦士たちを労った。腕がなくなり、個性が使えなくなったアメリカ軍の元大尉、個性の力で見た目が溶けたようになった事で迫害されの上がるためにギャングになった少年。いろんな奴らがいた。力を制限するあまりに力に翻弄されている。

「アームストロング候補！彼ら個性に振りまされた犯罪者や個性で戦争犯罪まがいな

した兵士などに会いに行つてゐるらしいですが、反社会的勢力の仲間、ヴィランを支持するのですか！」

リベラル・ペーパーズの記者がニヤニヤしながら質問してくる。俺に殴り返されたいという自信と相手を痛ぶれるチャンスとばかりにやつてくる。俺はこういう傍観者ぶる加害者が一番嫌いだ。

「だからどうした！ 奴らは精一杯生きていた。腕がなくなつた！ 作戦が戦争犯罪だつた！ 個性による見た目の変化で就職ができなかつた！ 無個性だからと迫害された！ お前にはおかしく見えてそれがヴィランと言うかもしれないねえ！ だがな、アイツらを歪だというがそれが俺には宝石に見えた。」

記者は驚いている何だこいつは？ 本当に馬鹿なのか？ 大学出ているのに馬鹿なら努力が足りないってことだ。親や自分の金や奨学金をドブに捨てただけだ。その金をアメリカの孤児やスラムのいま必死に上り詰めようとするアメリカスピリッツを持つ彼らに渡したほうがマシだ。

「個性に頼り切り個性で努力もせず、ただ毎日を個性の自慢と自分の個性の優越感で過ごす上流階級よりもだ！ 個性、個性いうがリベラル・ペーパーズは会社として個性重視主義や個性婚を支持してるのか？ 個性に振り回されてるのはリベラル・ペーパーズじゃないのか？ 支持政党のデモクラシが負けそうだからそうやる甘えさせてる根性が

アメリカを墮落させたんだ。」

周りにいた支持者から賛同の声が上がるアメリカもまだ捨てたもんじやない。愛国者の作り上げたミームがないのが素晴らしい。一度、利権が精算された個性紛争のあとにまた地下に潜り金と物資を備蓄していた金持ちインテリが幅を利かせて混乱した社会や経済を支配するそのやり口が気に食わねえ。しつかりとお前が戦っていたら、闘争をしていたら自由を求めたら、それらを考えて前に進んでいたらアメリカは偉大なるアメリカのままだったはずだ。アメリカをアメリカじゃなくしたのは富裕層と二大政党という党派性に縛られた自由の奴隷共だ。

俺の目指す修正サンズ・オブ・リパティは違う。努力と自由へ前のめりに死ぬ。その結果アメリカをアメリカ足らしめる。開拓と自由の道こそがアメリカだ。経済や軍事なんかはあとからついてくる。偉大なるアメリカを目指すためにまた一度利権を整理する必要がある。

「美しい手というのはな。インテリの豆一つない手じゃねえ。爪に汚れがあつて、顔に汚れを被つてそれでも何かをひたむきに作ろうとして汚れた手だ！アメリカを馬鹿にするんじやねえ！アメリカは世界の工場で世界の農場だったんだ！今はナヨナヨした金融やITばかりだ。生産を忘れて輸送を忘れて、地に足をつけた活動を忘れて、努力と土の味や匂いを忘れて！汚いと安いと馬鹿にしてきたのが今のアメリカに憧れず

に、ジャパンのオールマイトに憧れる市民を作り出した。人間は工場でできるわけじゃねえ！大地で出来るんだ。大地を再び作らないといけない。それには変革だ！わかつたか！封建主義者野郎！お前は経済と利権が作り上げたミームだ！あそこの爺さんを見てみる！」

俺は近づくとも無個性の年老いた爺さんたちの手を掴み、それを見てアメリカを感じる。農夫の手だ。そして工場員の手だ。これこそが、これが国家だ！アメリカの手だ。豆一つ出来ずに金を右から左に流して儲ける色白のヒョロガリでは到達できない手だ。

イノベーシオンやなんやで誤魔化しているがイノベーシオンは良いも悪いも振幅がある。常に人が必要としているのが……。

「わかるか？記者のお前に。この爺さんたちの正しさが。この手にこそアメリカが宿っている。」

爺さんたちの手を記者の前に出す。爺さんたちは困ってるようだが嬉しそうにしてやがる。爺さんたちの努力を無視してきた社会の歪みの現れだ。

「な、なにを!?!」

分からねえようだな。顔を殴つてやりたいが選挙中だから勘弁してやる。俺が説明してやるよ。

「正直者の努力をした労働者の手だ。ホワイトカラーごときには理解できない研鑽や

努力が宿っている。アメリカはこの手にこそ宿るんだ。世界が駄目になったんじゃねえ。アメリカが駄目になったから世界がおかしくなったんだ。金持ちが儲けるためにやるID登録された兵士やID登録されたヴィランやID登録されたヒーローやサイドキックと共にID登録された道具や武器を使い、ID登録された戦争を中東やアフリカでやり続けているじゃねえか！商業主義の戦争が幾らの血を流してやがる！儲かるのはホワイトカラーやマスコミやコングロマリットやら軍産複合体、それらだ！アメリカンにはおこぼれしか入らねえ！鳩が人間が食ったクツキーの食いカスを突くみたいにな！それはアメリカじゃねえ！奴隷国家だ！もはや、この国はローマ帝国だ！封建主義なんだよ！わかんねえのか！」

記者に詰め寄ると慌てて帰っていったが、俺が知らないところでこれを支持者が動画投稿サイトとSNSに投稿したようで、中間層の支持率が逆転し、開票前に俺の当選が決まった。

「俺が勝つからってな。だからお前らは軟弱なんだ。」

リパブリカとデモクラシから入党依頼書が来たが意思表明としてアームストロング公式サイトで、入党依頼書を燃やしてそれで葉巻を吸ってやる。二大政党制なんかクソ喰らえ！どちらかに考えを縛り付ける自由を阻害する行為だ。依頼書は他にも来ていて一日ヒーロー体験と言って落ち目のコロラドヒーロー協会がテキサスヒーロー協会

に勝つために俺に縋りついてきた。

金のために暴力やヒーローをやるとは商業主義で気に入らないが選挙活動中だ。それにうまくやればコロラドヒーロー協会もこちらの手に入る。形骸化したライフルや銃火器の協会を手に入れたがまだ足りねえ。偉大なるアメリカ、星条旗の光があるアメリカはまだ遠い。アメリカはアメリカだ。

「まあ、ヒーローも悪くはねえ。気に入らねえやつをぶん殴れる。」

行ってみたが拍子抜けだ。一日協会長として、ヒーローに勲章を渡すだけの湿気た仕事だ。

「俺じゃなくてもいいがな。」

裏側でヒーローを称賛する役のガキがいやがった。浮かない顔をしてやがる。どうしたんだこいつ。

「おい、どうした？」

俺は近づいて聞いてみたが、この讚えられるはずのヒーローは協会の売出し中で、ガキの親父の手柄を盗んだらしい。親父はヒーロー協会での立場を気にして黙ってるらしいが情けねえな。

「事情はわかったが俺はお前を助けはしねえ。助かるってのはな、自力でなんとかすることだ。そんなに助かりたいなら後で俺の事務所に来い。鍛えてやる。誰かに助け

てもらおうとするなんて笑い草だからな。ここはアメリカ、誰にでもチャンスはあるお前の親父にもだ。」

俺の背に「気に入らないやつは殴ってくれるんじゃないの!」と投げかけられたが知りはない。お前の事情やお前が気に食わないやつなのかしらねえ。

授賞式会場は明るめの会場で綺麗だ。しかし、集まってる財界人は愛国者と同じで体が腐ったような連中ばかりで反吐が出る。あそここの克蘭ベリージュースばかりを飲むあの上院議員は腎臓病患者なのだろうが痩せようとも体を鍛えようともしないで、若い金が無い学生から腎臓を買い付けようとするだろう。

「集まってもらったが主役はこのヒーローだ! Mr. トマスだ。」

出てきたそのヒーローは頭脳系ヒーローで様々なアイテムで体を強化してるやつだ。気に食わねえな。

「お集まりになってももらいました私、トマスはオックスブリッジ大学を首席で卒業しました。そして、今回の難事件を解けたのは靴をすり減らす無駄な行為をしない本当のヒーローがわた:。」

気が付いたら、トマスの野郎をぶん殴っていた。

「トマス! アームストロング一日協会長! なにを!」

俺は人の成果を盗むやつが嫌いなんだよ! うざったい顔をしゃがってこのクソ野郎

が。

「おめえが人の成果を自分のものと言うのは知ってるが、中でも、より俺が気に食わないのは靴の話だ。そして……ヒーローは気に入らねえ奴をぶん殴るためにいる。なら、俺はヒーローの役割を果たしたまでだ。アメリカ自信はわかるか？アメリカ・プライドだ！協会長、甥だろが知らねえがな。地に足をつけたしつかりとしたシエリフこそがアメリカがほしいヒーローだ。わかったか？お前のヒーローはあのヨーロッパの片田舎の島国くせえ。王族で自慰行為でもしてるんだな封建主義者が。」

俺はスーツの上着を一発で伸びたトマスに投げて被せると葉巻を取り出して吸った。商業主義が行き過ぎると多少顔が良いからつてああやってキラクターグツズを売るためにクズを持ち上げる。たまつたもんじゃねえな。会場の外に出るとガキがいた。

「やってくれた！ありがとう！」

何を言いやがるお前のためじゃねえ。

「俺は俺が気に食わないやつをぶん殴つただけだ。お前が勝手に解決したと思つてやがる。俺には勝てないと思つてるからお前の親父に嫌がらせをするだろうよ。お前の親父に言つておけ。ヒーローなら自分の子供すら守れねえのはおかしい話だろつてな。これで俺はやつぱりヒーローには縁が無いのが分かつた。俺が目指すのは……。」

そうアメリカ本来の自警団だ。ヴィンランテアメリカ合衆国建国の理念第二条だ。

「規律ある民兵こそは、自由な国家の安全にとって必要である。従って市民が武器を保有し、携帯する権利をこれを侵してはならない。とある。ならば俺が目指すのは西部劇に出てきたようなヴィジランテだ。お前らヒーローとは違う。」

俺はコロラドヒーロー協会をあとにして、黒塗りのアメリカ国産車に乗ると事務所につく頃にはヒーローを殴ったとして、パパラッチが集まっていた。訴訟を起こす気なんだろうあのヒーローは。

腹が減っていたところにちょうど運転手が昼飯に買っていたファストフードがあったて、買い取るとパパラッチの前でフライドチキン、ハンバーガー、ホットドッグ、フライドピクルスにピザをコーラで流し込むとよってこようとするので無視をした。

地元コロラドの個人店のファストフードがこの騒動で全米規模の報道になり、彼らが俺の後援会に入ったのは謎だが、昼夜を問わずにヒーローが無個性の俺に殴り飛ばされて伸びたのが面白いのかSNSや動画サイトのおもちゃにされたトマスは訴訟を取り下げた。

無個性に個性持ちヒーローが訴訟を仕掛ける時点で醜聞だったらしく、その過程であのガキがコロラド州議会で証言したことにより、俺の支持率はバカ上がりをした。

そして、コロラド州知事に受かった。

俺の求めるヴィジランテにはまだ程遠い。

## アメリカン・ドリーム

真夏の炎天下の中、俺は豚に成り下がってしまった哀れなアメリカのカケラ達にアメリカの意志を告げている。あの少女は氷結系の個性持ちだったようでよく働いてくれている。氷結系の個性により、会場は涼やかではあるが俺の周りにはそんなものはない。肌が日で焼けようとも俺は少しの悲しみと大部分の怒りを持って演説を再開していた。州議会選挙活動だからだ。大まかな見立てだと俺は圧倒的な不利ではあるが、熱狂的な南部と北部の肉体労働者、低賃金層、移民層、有色人種からの支持のもと、何かがあれば勝てると思っている。

「何を言われようとも我々アメリカには夢がある！ドリーム・アメリカ！アメリカン・ドリーム！再び、世界の治安が壊れようとしている！しかし、君たちには自由の民兵がいる！間違った政府を打倒するのは正しいアメリカの選択だ！国家による暴力の独占ではない！なぜならアメリカにはアメリカ合衆国憲法修正第2条がある！この条文によつて正しい自由意志において個性の使用は認められている！！アメリカには正しい民兵が必要だ！アメリカには正しいアメリカ国民が必要だ！世界が紛争やテロに溢れてる！

俺はそれらを殴り飛ばす！何故ならヴィランを殴り飛ばすのは気持ちがいい！ヴィランとは君たち正しいアメリカ家族を正しいアメリカ国民を！正しいアメリカ移民をセコく儲けた金と金による権力でねじ伏せようとする！今の政府は正しいアメリカ国民か？知能系個性は使用を禁止されずに自由使用されて、彼らインテレクチュアルと名乗る集団は愛国者パトリオットと呼ばれるが富の99・99%を握るわずか0・1%程度の集団だ！知能系個性が使用を制限されないのに、他の個性は制限されている！これは政府による規制だ！アメリカは自由だ！政府が国家を作るのではない！アメリカはアメリカンがいて、アメリカの信念を持つ時にそこに作られる！何が今、必要だ！」

俺が叫ぶと聴衆は口々に絶叫する。

「「「「アメリカには変革が必要だ!!」」」」」

そして、個性規制緩和や不法移民が下げている低賃金、企業努力としての低賃金を補うためのチップ制度廃止などプラカードが上がる。

「そうだ！今の世界には変革が必要だ！若者が大学に行くには軍や警察で働いてから行くことが多くなっている！政府が軍や警察をヴィラン退治で出動させ何人殺した！若者が死に、セコく儲けるやつらが生き残り、安い賃金を不法移民で成立させ、不当な競争によりアメリカ国民が被害を受ける！アメリカ政府がアメリカ企業に奴隷を作らせるサイクルを導入している！俺はそれをぶっ壊す！この国をぶっ壊す！そして、また

アメリカを作る！アメリカは何度でも蘇る！能力がある若者が再び街を歩けるようにする！まず、海外に移転された生産拠点も戻し、運輸の給料も上げる！再びアメリカは蘇る！アメリカは蘇り続ける！第一次産業、第二次産業、第三次産業をアメリカに取り戻す！この国の国民にアメリカを取り戻す！金融などには課税だ！アメリカを使い儲けてきた奴らにも課税だ！99.99%の富を握る奴らから、アメリカ人に富を取り戻す！アメリカは再びアメリカになる！わかったか！」

アメリカの合唱が木霊する。アメリカだと実感する。

「I <sup>俺</sup> Have <sup>は</sup> a <sup>夢</sup> Dream!! 今日の俺は、偉大なる自由を抱える米国史の中で、

こんなにも自由を求める最も偉大な独立戦争以来の最も自由を求めたアメリカ人達が集まった日として、再びアメリカ人に自由が戻り歴史に残ることになるこの集會に、理想を共にする真の自由を愛する愛国者パトリオットと共に参加していることを誇りに思う！数にすればたったの2万8000人しかし、一歩目としては十二分だ。すべての道はアメリカに繋がっている時代を取り戻し、自由を掴む!!」

俺の演説に歓声上がる。個性を空にぶつ放すやつもいる。これがアメリカのあるべき姿だ。階級や富なんかはそんなものは大事じゃねえ！努力した分だけアメリカンはデカくなれる！国土と同じだ！俺が大統領になれば世界はアメリカになり、アメリカは世界になる。くだらねえ訴訟をするような弁護士や楽しんで儲けようとする生っちょ

ろい奴らは全部、思い知るのだ星条旗とは何かを！アメリカはアメリカだ！

「この国の自由が奪われた時に、ある偉大なアメリカンが、この国にあつた奴隷解放宣言に同意した。今は、そのアメリカンを象徴する像がある記念館は単なる記念館になつた！それは、奴隷として繋がれた身にあつた、彼らの長い時間に終わりの鐘を鳴り響かせた。喜びに満ちたはずだつた！夜として訪れたのだ。再び企業は自身の有利な条件で奴隷を作り出した。今ココにいる者たちだ！不当な競争と自由を求める活動はビジネスに成り果てた！」

聴衆は怒りの声を上げる、当たり前だヤワな奴らに搾取される本来なら強者になれるかもしれない者が大多数だからだ。機会は平等に与えなければならぬ。そうじゃなければ弱者が強者になれる可能性が閉ざされた自由がない社会になる。俺の理想は真の自由だ！

「時間を経た今、アメリカンは自由ではない！アメリカンは、この管理された管理社会で蜘蛛の巣のように広がつた！インターネットなんかの広大な電子の海の規制がくだらねえ社会システムを助長している！ビジネスで得た、ビジネスで同胞を売つた時にだけ得られる素晴らしき愛<sup>売</sup>国<sup>奴</sup>者が整えた箱庭に住んでいる。まるで路地裏の日銭欲しさ

に身体を売り殴られて残飯を漁るこの国ではありふれたホームレスのような生活を送る羽目になっている！違うか！」

「合ってる！」と次々に賛同の声が上がる。当たり前だこの国は狂っている！「この自由は仮初だ！」「個性開放万歳！」「無個性が障害者扱いは間違ってる！」「クソみたいなインテリを潰せ！」口々に声上がる。そのとおりだ。アメリカという大国のバランスとアメリカンドリームを失った世界は競争社会から闘争社会に変わった。個性発生の社会は俺が求めた形かもしれないが、子どもの保護を忘れている。スパルタが子どもを厳しく教育と保護したように、それさえ出来ていて政府が残れば素晴らしい社会だった。理由のわからん連中が、今の子供の教育に入り込んで次世代を洗脳する…ガンパウダーで洗脳されたジャックのように、だから、俺は理由のわからん連中を徹底的に、また徹底的に叩く。ジャック！お前のミームも俺のミームにいれる！これにより、ミームは加速する！

これこそが俺の立てる真の自由、ガンズ・オブ・ザ・パトリオットだ！当たり前だ！市民団体を介して二大政党が個性というガンを支配してやがる。これはアメリカ建国の理念に反する！政府が間違っているも個性による抵抗が出来なければ善意の民兵は存在しない！つまり、西部時代より前の植民地時代だ。人種や思想なんか関係ねえ！アメリカはアメリカのプロパティを守る国家だ！俺のアメリカは暴力を管理しねえ！大

多数の国民が善意の民兵として政府を取り囲むのなら、それはそのアメリカが間違っている！そして、民兵から新しいアメリカが生まれるはずだ！これが俺の自由による新陳代謝だ！間違っていたならば入れ替わり続ける愛国者！これならば真のパトリオットになり、アメリカは再びアメリカとして再生する！

「ただ生きるといふ小さなパンとスープを得るために、鬭争や日陰でしか生きられない者たちの為に俺はここに來ている！奴隷解放や人権は、すべてのアメリカンが、人種も思想も収入も職業も乗り越えて最大限に経済をできる環境を整えたものだ！生命と自由、幸福の追求というアメリカンドリームを叶える不可侵の権利を保証され、それらを土台に働けば働くだけ金を貰えるという約束だったはずじゃねえか！だがな！今日のアメリカが、俺が知る南部に関する限り、この契約を不履行にしていることは明らかだろうが！アメリカは神に誓った不条理だが経済的でアメリカをアメリカたらしめるこの神聖な義務と責任に対して、自称合理的経済人たちと今のアメリカ政府はそれを放棄して権利だけを主張した！今のアメリカ政府と議会はそこら辺の山幾らの市民団体、環境団体、労働組合程度の組織に成り下がった！だからこそ、俺はアメリカをアメリカンに取り戻す！ここに居るの全員の親や祖父母がしたように！それより前の世代がしたようにこの国に！正義と自由の鐘を鳴り響かせる！自由の軍靴で寝ている経済人のケ

ツを蹴り上げて、そびえ立つクソの山を踏み鳴らし、黄金の穂波がうねるあのアメリカを！あの日のアメリカを！あの時代のアメリカを取り戻す！邪魔するやつはぶん殴る！それだけだ！」

会場は一層盛り上がる、そうだ！ミームはこれだ！社会を変える！変わらない日々ではない、変わろうとするから変わる！ミームは引き継がれる。ミームは文化となり、土を耕し文明へと進化する。そして、土から生まれた者たちが気に入らないやつをぶん殴る！聖域なき構造改革だ！

「気に入らないやつはぶん殴るんだな！」

背格好から察するに女か少年がステージに上ってきた。警備員たちがこちらを向くが来なくていいと手で止める。俺はこういう拳で交わす討論、いや闘論が大好きだ。力と力のアウフヘーベンが生まれる：本当に指導者同士が最前線に行つて兵士の代わり殴り合いをし、夢を拳で語り合えば戦争は変わるだろう。戦争から人間を切り離してロジステイクスにした結果生まれたのはクソのような管理社会、つまりはファシズムだ。自由は生まれながらにあるのなら自由は自由に殴り合い語り合えば良い。拳は嘘をつかない：たとえ弱者でも拳を振り上げて相手に伝えようとする努力をすれば夢はかならず叶う…。

「そうだ！I 俺 Have に a は Dream!! 夢古き良きアメリカと自由！闘争と意思の

明確化！管理社会の破壊と個性を管理するファシズムのような世界をぶっ壊す！もう一度言う！アメリカをぶっ壊し！アメリカを再び創造する！個性の使用は自由だ！合衆国憲法修正第2条により保証されている！つまり、お前が俺を殴るのも自由だ！気に入らなければ拳で闘論すればいい！金があるやつがより金を持ち、金がないやつを搾取する！そんな狂った社会を終わらせる！ニューハンプシャーの広大な丘の頂点から自由の鐘を鳴らしてやる！ニューヨークの雄大な山々に伝わって自由の鐘が鳴るだろう！ペンシルベニア州の高地アレゲニー山脈までもが自由の鐘を鳴らすだろう！無論、雪を頂いたコロラド州のロッキー山脈も自由の鐘を鳴らす！狂ったりベラリズムの象徴のカリフォルニアの湾曲した海岸線からもだ！南部のジョージア州のストーンマウンテン、テネシー州のルックアウトマウンテン、ミシシッピ州のすべての丘から鳴り響くだろう！まさに、I Have a Dream!! I Have a Dream!! I Have a Dream!!

I Have a Dream!!  
俺には夢がある！  
 Make America Free Again!!  
自由なアメリカ人を再び創造する！  
 Who will do that?!!  
それは誰がやるんだ？  
 That's what Americans do!  
俺たちがアメリカ人だからだ！  
 Because I am American! Let's Parley!  
何故ならば俺はアメリカ人だからだ！

その言葉で相手が一気に何かを出す：ちらりと見えた銀色、アメリカらしい

シングル・アクション・アーム  
S. A. A それも二丁だ。アメリカの銃だ。古き良き銃だ。

「貴様は間違っている！それでは世界に戦争を広げるだけだ！沢山の弱者が死ぬ！アメリカはそれを許容しない！」

相手は銃を撃つが俺はステージの床を足で蹴り上げて銃弾を防ぐ、そして、そのままジグザグに前転するように近付き、タックルをキメる。

「だが、お前も暴力で俺を変えようとした…またお前も俺の仲間だ…。アメリカは死んでいなかった…アメリカは生きていた…戦いは終わらない。アメリカ人の心の中にアメリカンスピリッツが生きている限り！俺を殺したければ着いてこい！いくらでも俺の背中を狙えるぞ。アメリカはそうやって敵すらも内に秘めてきた。お前もまたアメリカだ。気に食わねえ俺をぶつ倒すぐらい強くなれ！それが俺の政策だ！」

暗殺者を立ち上がらせてホコリを払うと外套で見えなかった顔があらわになる。なんだ、少女じゃないか。

「握手と行こうぜ兄妹。俺はアメリカを変える。変革をもたらず、お前も俺を殺したのなら自己変革をしろ！それもアメリカだ。お互いのアメリカのぶつかり合いの先にアメリカは開かれる…強いほうがまたより良いアメリカを作り上げる。いわば同志だよ。このアメリカを変える。」

俺は葉巻を出して落ちた金属片と金属片を思い切り擦り合わせて火を点ける。ハバ

ナやニカラグア、ドミニカ、キューバ色々な国の味と香りがする。だからこそアメリカに相応しい。葉巻会社もアメリカに作らねばならないと固く誓った。

「私はそんなことを良いとはいってない！貴様が勝手に言ってるだけだろ！」

少女が叫ぶのに背中で答える。ただそれだけだ。群衆たちは一斉にアメリカ国歌を歌っている。葉巻の余韻とアメリカ国歌の余韻はバーボンと南部のジャッキーぐらい合うものだ。

「否定したければ俺をぶん殴れば良い。ただそれだけだ。」

俺は会場まで乗ってきた馬に乗り、ここを後にする。時には車よりも馬が良いときもある、バイクが良いときもある：アメリカの偉大な発明の車が良いときもある：。今日は馬が良いときだ。ケンタッキー州の農場で買った馬を駆り、事務所に戻ることにする。俺はイージーゴアよりサンデーサイレンスのほうがアメリカに相応しいだろうなとふと思いつきながら傷だらけの英雄より血統の正しさを主張する奴らにはわからないだろうなと高笑いをした。

スーツからスキットルを出すとバーボンを飲み干した。